

- 地区社協の「福祉のまちづくり推進委員会」が高齢者見守りネットワークの母体となることを優先し、佐々木案に示された構成メンバーとの差、および包括支援センターの位置づけなどは、今後、推進委員会及び社協役員会での協議を通して解決していく。

4. 参加者全員拍手で、社協会長の提案に賛意を表し、三入東見守りネットワークは今後社協の「福祉のまちづくり推進委員会」で取り扱われることになった。

以下、追加会議（資料説明）

5. 三島会長と佐々木から情報提供として、添付資料の説明があった。（添付資料参照）

- 三島会長
 - 包括に3名の登録をした。しかし、見守り協力員の署名は3名の内2名に対して得られなかった。私の名を書くしかなかった。
 - 見守り対象者と協力員を繋ごうとする人は細かな心遣いが必要となる。
- 佐々木
 - 普段、気楽に声かけあっている相手でも（見守られる側が見守り協力員になって）書面に署名をもらうとなると躊躇する。
 - 躊躇した気持ちを整理したものが高木様のお願い文書です。

6. 見守り協力員の署名を求めるという点で他地区での参考になる話はあるかと司会の佐々木が包括支援センターに質問したところ以下の説明があった。

- 先の話の中では見守り希望者が見守り協力員を探すという順序になっているが、可部地区では主にサロン活動を通してのことだけれども、お互いが見守り協力員として署名するという形で進めているところもある。

以下、さらなる追加会議（意見交換）

7. 散開しようとしたところ、「見守り協力員の署名が得にくいことの対策について話し合わないのか」との指摘があり、以下の議論が続いた。

- 本日の目的は達成しました。各人、各単位自治会・町内会で事情の異なることであるため、今、ここでの議論としたくない。宿題として持ち帰りを。（佐々木）
- 見守りが必要な人がいて希望するなら、見守り協力員に署名する人がいなくても登録することが先でしょう。署名はしないけれども見守りに協力してくれる人はいるはずです。（磯部）
- 包括支援センターに伺います。協力員の署名は必須のものなのか。（榎）
- 行政からの情報を元に、自治会で見守り対象者をピックアップし、見守り登録を優先して協力員等の細部は後回しで良いではないか（寺島）
- 高木さん書面の（イ）でも対象者の網掛けのことが挙げられている。（佐々木）
- 希望者以外を見守る（登録する）と争いなる。（磯部）

8. 意見交換の続きは次回以降に持ち越し、ここで会議を終了した。